

# 片仮名と漢字の形の類似点を考慮した指導法

ヴォロビヨワ・ガリーナ、ヴォロビヨフ・ヴィクトル  
元キルギス国立総合大学

**要旨：**片仮名は基本的に漢字の一部を取って作られた文字であり、当然のことながら、漢字と共通の画を含んでいる。その形の類似点を漢字指導でぜひとも利用すべきだと考える。日本語教育で用いられている「片仮名は平仮名の後」という学習順序に関する考え方を見直し、「片仮名は漢字の前」という考え方を導入する意義があると思われる。本研究では漢字と片仮名を構成する画の類似点を分析し、それを片仮名と漢字指導で生かす方法を検討する。階層的なアプローチに基づき画と片仮名の正しい書き方を漢字の書き方の予備段階として指導する重要性を示す。

**Абстракт:** Знаки слоговой азбуки катакана образованы из иероглифов путем выделения их частей, поэтому естественно, что они включают черты, одинаковые с чертами иероглифов. Авторы считают, что это сходство формы необходимо использовать при обучении катакане и иероглифам. Предлагается пересмотреть используемый в преподавании японского языка подход "катакана после хираганы" и, сместив акцент, принять за основу подход "катакана перед иероглифами". В настоящем исследовании анализируется сходство черт, входящих в состав иероглифов и знаков катаканы, и даются рекомендации, как использовать это сходство в преподавании катаканы и иероглифов. Основываясь на иерархическом подходе, авторы указывают на важность усвоения правильного написания черт и азбуки катакана в качестве подготовительного этапа к обучению иероглифам.

## 1. はじめに

片仮名は基本的に漢字の一部を取って作られた文字であり、当然のことながら、漢字と共通の画を含んでいる。たいていの場合は片仮名を指導する際にそれぞれの片仮名文字がどの漢字からどのようにできたかということを紹介するが、その後漢字を指導しはじめる際には、もうその共通性に注意を促さない。しかし、その形の類似点を漢字指導でぜひとも利用すべきだと考える。日本語教育では片仮名と平仮名の音の同一性を重視して、それこそに学習者の注目を促す。しかし、日本語教育で用いられている「片仮名は平仮名の後」という学習順序に関する考え方を見直し、「片仮名は漢字の前」という考え方を導入する意義があると思われる。本稿ではそのような考え方に基づく指導法について述べる。

## 2. 先行研究

本節では平仮名と片仮名の教える順序、また片仮名と漢字の関連に関する先行研究を紹介する。伊藤（1991:32）は「平仮名と片仮名とどちらを先に与えるのかということについては、片仮名は平仮名に比べて、直線的で書きやすいという利点があるにしても、現在の国内における日本語教育では平仮名先習ではほぼ一致している」と記している。しかし、国外の環境では、外国の地名・人名・物名を片仮名で書いているので、片仮名の使用率が高い。伊藤（1991: 32）によれば、

「その土地や学習者に最も適した教育が好ましいとする立場からすれば、国外の場合は別に考えられてもいいとする考えもあり得る」。つまり片仮名を平仮名より早く教えてもいいという考えを示している。

武部（1989:161）は漢字の覚え方の基礎は識別力であると主張している。そして片仮名と同じ形をしている漢字（エ工、カ力、タ夕、ニ二、ロロ）、片仮名を組み合わせた漢字（左、江、仁、外、加、功、多、名、台、佐、伝、治）から漢字を教え始めたほうがいいという考えを表す。漢字指導の際にこのような片仮名の組み合わせである漢字に注意を促す意義があると思う。

カイザー（1995：34）によれば、漢字の表音性を意識するためには「漢字学習以前に片仮名を覚えさせ、漢字の形と表音性の関係をさらにわかりやすくするのが理想的である」。カイザー（1995：34）は「片仮名には訓がな（チ「千」、ヘ「部」、ミ「三」、メ「女」）もあるが、以下のような音がなもある。カ「加」、タ「多」、ハ「八」、リ「利」と記している。

片仮名と漢字の指導法の関連性に関する先行研究があまり多くなくて片仮名だけでできた漢字はどのくらいあるかという調査などは今後の課題になる。

### 3. 平仮名と片仮名の学習順序

平仮名と片仮名の音の類似性を重視して、平仮名と片仮名を同時に「あア、いイ、うウ、えエ、おオ」の順番に教える方法も使用した教材も存在している。確かに、平仮名を「あいうえお」の順番で教える意味があり、1行目「あいうえお」だけを教えても、多くの語例を同時に教えることができる。例えば、「あい、あう、あお、いい、いえ、いいえ、いう、うえ、うお、ええ、おい、おおい、あおい」などである。それに対して、「アイウエオ」の順番で片仮名を教えると語例を作るのは難しく、学習者に達成感を与えるのも難しい。各授業で学習者にとって重要で覚えやすい語例を用意して、その単語に入っている片仮名を教えると、学習を楽しくして学習者に達成感を与える指導になると思う。例えば、「カレンダー、コーラ、スポーツ、ロック、ギター、コンピューター、オリンピック、ジーンズ」という単語、クラスの学習者の名前、国と町の名前などの単語である。

### 4. 片仮名と漢字の画と筆順の類似点

本研究は、片仮名と漢字の形の関連性を強調することに加えて、

{画 → 片仮名 → 漢字}

という階層的なアプローチで指導する点に特徴がある。筆者らは一般に使用されている漢字教材30冊以上（1992年から2011年まで日本国内と外国で出版されたもの）を対象に調査を行った。その結果、上記の教材に漢字と片仮名の関連についての説明が入っていないということが明らかになった。つまり、日本語教育では一般に漢字の指導は片仮名の指導と別々にすることが多く、その文字の形の類似点に学習者の注意をあまり促さないようである。

筆者らは片仮名と漢字の形の類似点についてヴォロビヨフ・ヴォロビヨワ（2011: 770）で紹介し、ヴォロビヨワ（2014）などでも検討している。片仮名は漢字と共通の画を含み、筆順の規則も同じである。画（ストローク）は片仮名と漢字の最小の形態的単位、一番細かい、一筆で書かれる要素である。画への分解は漢字の意味の理解には役に立たないが、片仮名と漢字の正しい書

き方、筆順の理解などために役に立つ。

Zadoenko & Khuan (1993) は中国語の漢字指導では 24 種類の画を扱っている。筆者らは片仮名と漢字の画の種類を確定するためにそれらの画への構造分解を行った。つまり、筆順に従い、漢字と片仮名の画を一つずつ抽出した。

例 女 → {く、丿、一}      ク → {丿、フ}

全片仮名をカバーする画は 16 種類で必要かつ十分であることが明らかになった。さらに 2010 年内閣告示常用漢字 2136 字の個々の漢字を分解した結果、それらをカバーするには同じ 24 種類の画で必要十分であることが明らかになった。「へ」という画は常用漢字で使用されずに、片仮名のみで使用されている。要約すると、片仮名と 2136 字の常用漢字をカバーする画は 25 種類で、そのうち、次のように 3 つに分けられた画が使用されている。

片仮名と漢字で 15 種類	{一   丨 冫 冫 冫 丿 ㇇ ㇇ ㇇ ㇇ ㇇ ㇇ ㇇ ㇇ ㇇ ㇇}
漢字だけで 9 種類	{し し じ く う ら し 乙 ㇇}
片仮名だけで 1 種類	{へ}

筆者らは画の種類確定と類似点の分析以外に、画のコード化、片仮名と漢字のコード化を行ない、コード化に基づく文字の筆順の表記法及び筆順の学習と筆順のテストのために利用されるソフトを開発した。そしてコードのデータベースを構築し、漢字構造の計量的分析も行った (ヴォロビヨワ 2008, 2009, 2011, 2014)、(ヴォロビヨワ&ヴォロビヨフ 2015, 2016)。

### 5. 漢字と片仮名の画のアルファベット・コード

25 種類の個々の画にローマ字の形を結びつけ、A から Z のアルファベット・コードをつけた。その際、漢字の画の形からアルファベットの形が連想できるようにした (表 1)。表 1 には個々の画を含む漢字と片仮名の例も提示してある。

表1 25種類の漢字と片仮名の画とそのアルファベット・コード

番号	画	アルファベット・コード	含む文字の例	
			漢字	片仮名
1	一	A	一 二 十	サ ナ ニ
2	丨	B	川 十 中	イ エ ト
3	乚	C	礼 他 包	×
4	勹	D	代 我 民	×
5	凵	E	山 出 缶	モ
6	冫	F	子 予 皮	ア セ ヤ
7	冫	G	月 力 同	×
8	凵	H	口 目 国	コ ヨ ロ
9	勹	J	才 予 到	オ ホ
10	勹	K	女 巡 災	×
11	丶	L	火 前 黒	ホ
12	彳	M	及 延 建	×
13	勹	N	弓 引 張	×
14	勹	O	木 火 八	ハ
15	ノ	P	木 八 非	ケ ノ ソ
16	丶	Q	六 不 黒	ネ シ ホ
17	乙	R	九 机 風	×
18	丶	S	立 字 方	ワ ウ
19	レ	T	氏 長 震	レ ル
20	勹	U	糸 充 到	ム
21	勹	V	海 持 孫	ン シ
22	乙	W	乙 乞 乾	×
23	フ	Y	又 夕 水	ク フ ラ
24	勹	Z	乃 奶 秀	×
25	へ	X	×	へ
合計			24	16

表2には漢字が含む24種類の画をコンパクトに提示した。

表2 漢字の24種類の画とそのアルファベット・コード

A	B	C	D	E	F
一	丨	乚	㇇	㇈	㇉
G	H	J	K	L	M
㇊	㇋	㇌	㇍	㇎	㇏
N	O	P	Q	R	S
㇑	㇒	㇓	㇔	㇕	㇖
T	U	V	W	Y	Z
㇗	㇘	㇙	㇚	㇛	㇜

次の段階では画のアルファベット・コードをもとに片仮名と漢字のアルファベット・コードを作成した。

## 6. 片仮名のアルファベット・コード

筆順に従い各々の片仮名文字の各画をそのアルファベット・コードに変換し、個々の文字のアルファベット・コードを作ることができた。

例 ア → FP、イ → PB、ウ → SSY

これによって片仮名文字の形を適切に示し、文字の筆順をアルファベット・コードで表すことも可能になった。表3には個々の片仮名のアルファベット・コード、片仮名文字の字源の漢字と備考が入っている。片仮名の字源の漢字と備考はインターネットサイト「ひらがな、カタカナの由来」〈<http://www.hana300.com/aakana.html>〉から引用した。

## 7. 片仮名と漢字の類似点を生かした階層的なアプローチに基づく指導法

個々の画をアルファベットにたとえると、コード化された片仮名と漢字の一文字は英単語に相当する。そのコードは文字の筆順を表すものであり、文字の筆順のテストの手段として利用可能である。本研究でも漢字と片仮名を構成する画の類似点を考慮に入れ、それを漢字指導で生かす方法を検討し、片仮名の書き方を漢字の書き方の予備段階として指導することにした。

階層的なアプローチに基づき、キルギス国立総合大学のIT学部で{画 → 片仮名文字 → 漢字}という順序で教えたところ、学習者の片仮名と漢字の習得が早くなった。このことから、このように構造化された片仮名と漢字の指導により、習得しやすくなったと言える。

表3 片仮名の字源とアルファベット・コード

片仮名	コード	字源の漢字	備考	片仮名	コード	字源の漢字	備考
ア	FP	阿	阿の左側部分	ネ	QYBQ	衤	衤の左側部分
イ	PB	伊	伊の左側部分	ノ	P	乃	乃の左側部分
ウ	SSY	宇	宇の上の部分	ハ	PO	八	
エ	ABA	江	江の右側部分	ヒ	LE	比	比の右側部分
オ	AJP	於	於の左側部分	フ	Y	丩	丩の左上部分
カ	GP	加	加の左側部分	ヘ	X	部	部の右側部分
キ	AAB	幾		ホ	AJLQ	保	保の右下部分
ク	PY	久		マ	FQ	万	
ケ	PAP	介		ミ	AAA	三	
コ	HA	己	己の上の部分	ム	UQ	牟	牟の上の部分
サ	ABP	散	散の左上部分	メ	PO	女	女の下部分
シ	QQV	之		モ	AAE	毛	
ス	YO	須	須の右側部分	ヤ	FB	也	
セ	FE	世		ユ	HA	由	由の右側部分
ソ	QP	曾	曾の上の部分	ヨ	HAA	与	
タ	PYQ	多	多の上の部分	ラ	AY	良	良の右上部分
チ	PAP	千		リ	BP	利	利の右側部分
ツ	QQP	川		ル	PT	流	流の右下部分
テ	AAP	天		レ	T	礼	礼の右側部分
ト	BQ	止	止の右上部分	ロ	BHA	呂	呂の上部分
ナ	AP	奈	奈の左上部分	ワ	SY	和	和の右上部分
ニ	AA	二		ヲ	AAP	乎	
ヌ	YO	奴	奴の右側部分	ン	QV	尔	

片仮名と漢字の画の書き方を教えるために画の書き方練習シート（表4）を作成し、実際に漢字指導で利用した。学習者に「とめる、はらう、はねる」という概念の説明をし、それに基づき個々の画の書き方を教え、練習させてから文字の書き方に進む。

表 4 片仮名と漢字の画の練習シートの一部抜粋

1	A	一	一	一														
2	B	丨	丨	丨														
3	C	㇀	㇀	㇀														
4	D	㇁	㇁	㇁														
5	E	㇂	㇂	㇂														
6	F	㇃	㇃	㇃														
7	G	㇄	㇄	㇄														
8	H	㇅	㇅	㇅														
9	J	㇆	㇆	㇆														
10	K	㇇	㇇	㇇														
11	L	㇈	㇈	㇈														
12	M	㇉	㇉	㇉														
13	N	㇊	㇊	㇊														
14	O	㇋	㇋	㇋														
15	P	㇌	㇌	㇌														
16	Q	㇍	㇍	㇍														
17	R	㇎	㇎	㇎														
18	S	㇏	㇏	㇏														

片仮名の書き方の習得を漢字の書き方の予備段階として指導していくことで、漢字の導入が容易になった。

表 5 では筆順に従い個々の片仮名の画とアルファベット・コードを提示した。このような構造分解は文字の書き方をわかりやすく示すことができる。

表 5 片仮名の画とアルファベット・コード

片仮名	画				コード	片仮名	画				コード
ア	フ	丨			FP	ネ	、	フ	丨	、	QYBQ
イ	丨				PB	ノ	丨				P
ウ	、	、	フ		SSY	ハ	丨	、			PO
エ	一	丨	一		ABA	ヒ	ノ	└			LE
オ	一	丨	丨		AJP	フ	フ				Y
カ	┐	丨			GP	へ	へ				X
キ	一	一	丨		AAB	ホ	一	丨	ノ	、	AJLQ
ク	ノ	フ			LY	マ	フ	、			FQ
ケ	ノ	一	丨		LAP	ミ	、	、	、		QQQ
コ	┐	一			HA	ム	└	、			UQ
サ	一	丨	丨		ABP	メ	丨	、			PQ
シ	、	、	ノ		QQV	モ	一	一	└		AAE
ス	フ	、			YQ	ヤ	フ	丨			FB
セ	フ	└			FE	ユ	┐	一			HA
ソ	、	丨			QP	ヨ	┐	一	一		HAA
タ	ノ	フ	、		LYQ	ラ	一	フ			AY
チ	ノ	一	丨		LAP	リ	丨	丨			BP
ツ	、	、	丨		QQP	ル	丨	└			PT
テ	一	一	丨		AAP	レ	└				T
ト	丨	、			BQ	ロ	丨	┐	一		BHA
ナ	一	丨			AP	ワ	、	フ			SY
ニ	一	一			AA	ヲ	一	一	丨		AAP
ヌ	フ	、			YQ	ン	、	ノ			QV

表 6 にはアルファベット・コードの順序で並べた片仮名が入っている。アルファベット・コー



ド化を習得した学習者はそれを利用し、未習の片仮名でもアルファベット・コードで速く調べて読むことができる。そしてそれを利用すればするほどいつの間にか自然に個々の片仮名の形と読み方が覚えられる。

表6 アルファベット・コードの順序で並べた片仮名

コード	片仮名	読み方	コード	片仮名	読み方	コード	片仮名	読み方
AA	ニ	ni	FE	セ	se	PYQ	タ	ta
AAA	ミ	mi	FP	ア	a	QP	ソ	so
AAB	キ	ki	FQ	マ	ma	QQP	ツ	tsu
AAE	モ	mo	GP	カ	ka	QQV	シ	shi
AAP	ヲ	o	HA	コ	ko	QV	ン	n
AAP	テ	te	HA	ユ	yu	QYBQ	ネ	ne
ABA	エ	e	HAA	ヨ	yo	SSY	ウ	u
ABP	サ	sa	LE	ヒ	hi	SY	ワ	wa
AJLQ	ホ	ho	P	ノ	no	T	レ	re
AJP	オ	o	PAP	チ	chi	UQ	ム	mu
AP	ナ	na	PAP	ケ	ke	X	ヘ	he
AY	ラ	ra	PB	イ	i	Y	フ	fu
BHA	ロ	ro	PO	ハ	ha	YO	ヌ	nu
BP	リ	ri	PO	メ	me	YO	ス	su
BQ	ト	to	PT	ル	ru			
FB	ヤ	ya	PY	ク	ku			

片仮名学習が終わってから漢字を導入する際にまず片仮名と同じ形をしている漢字を紹介した。例えば、「口」、「力」、「工」などだった。その際に学習者が喜んだことは、努力せずにすでにいくつかの漢字の形を覚えているということだった。次に漢字を構成する片仮名の組み合わせ方を示した。

- ・横並び（例：カロ→加、イム→仏、ケケ→竹）
- ・縦並び（例：ニル→元、ハム→公、ウハ→穴）
- ・斜め並び（例：タタ→多、ナヌ→友、タロ→名）
- ・複合的な組み合わせ（例：サイヒ→花、ロロロ→品、イニム→伝）

それも学習者の達成感を及ぼし、漢字学習に対する恐怖を防ぐ手段となった。

コード化に基づく文字の筆順の表記法及び筆順の学習と筆順のテストのために利用されるソフトを開発し、キルギス国立総合大学の IT 学部で日本語を教える際に実際に利用し、筆順の習得に効果があったと結論付けた。

## 8. まとめ

筆者らは片仮名と漢字の形の類似点を分析し、その類似点を利用した漢字指導法を開発した。本稿では日本語教育で用いられている「片仮名は平仮名の後」という学習順序に関する考え方を見直し、「片仮名は漢字の前」という考え方を強調して、{画 → 片仮名 → 漢字}というような階層的なアプローチに基づく指導法について述べた。そのために練習シート及び文字の構造、筆

順をわかりやすく示す表を作成した。その教材及び筆順の学習と筆順のテストのために開発したソフトも効果的だった。

漢字を導入する際に漢字と片仮名の形の類似点に注意を促すことが漢字に対する恐怖を防ぐ手段となりえることがわかった。

#### 参考文献

- 伊藤芳照 (1991) 「日本語教育における文字習得」『日本語学』 10:31-37.
- カイザー・シュテファン (1995) 「初級漢字のやり直し指導」川口義一、加納千恵子、酒井順子編『日本語教師のための漢字指導アイデアブック』 29-37. 創拓社
- 武部良明 (1989) 『漢字の教え方』 アルク
- ヴォロビヨワ・ガリーナ (2008) 「連想記憶法と使用頻度に基づく非漢字圏向け漢字教材の開発」:// 日本語教育学世界大会 2008 『第 7 回日本語教育国際研究大会「日本語教育学の広域ネットワーク構築に向けて」 予稿集』 3 (グループ D) 203-207、韓国 釜山外国語大学校
- ヴォロビヨワ・ガリーナ (2009) 「漢字の分解と構成要素の計量的分析に基づいた学習漢字の最適な掲出順序の開発」『第 13 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム 報告・発表論文集』 58-65、トルコ日本語教師会、ヨーロッパ日本語教師会
- ヴォロビヨフ・ヴィクトル、ヴォロビヨワ・ガリーナ (2011) 「階層的なアプローチにもとづく漢字の指導法」『第 10 回世界日本語教育研究大会「異文化コミュニケーションのための日本語教育」 予稿集上』 778-779、天津:高等教育出版社
- ヴォロビヨワ・ガリーナ (2011) 「構造分析とコード化に基づく漢字字体情報処理システムの開発」『日本語教育』 149: 16-30.
- ヴォロビヨワ・ガリーナ (2014) 『構造分解とコード化を利用した計量的分析に基づく漢字学習の体系化と効率化』 ノースアイランド  
<[http://www.grips.ac.jp/jp/dtds3/galina\\_vorobeva/](http://www.grips.ac.jp/jp/dtds3/galina_vorobeva/)>.
- ヴォロビヨワ・ガリーナ、ヴォロビヨフ・ヴィクトル (2015) 「漢字の構造分析に関わる問題—漢字字体の構造分解とコード化に基づく計量的分析—」『国立国語研究所論集』 9:215-236.  
<<http://www.ninjal.ac.jp/publication/papers/09/pdf/NINJAL-Papers0911.pdf>>.
- ヴォロビヨワ・ガリーナ、ヴォロビヨフ・ヴィクトル(2016) 「非漢字系日本語学習者の漢字学習の支援を目指す漢字構造記述」『漢字字体史研究 二 字体と漢字情報』 勉誠出版 244-264.
- Zadoenko, Tamara [Задоеико Тамара], Shuin Khuan. [Шуин Хуан] (1993) *Osnovy kitajskogo jazyka: vvodnyj kurs*. [Основы китайского языка: вводный курс - 基礎漢語]. Moscow: Nauka [M:Наука].

#### 謝辞

本稿の執筆にあたって津田塾大学非常勤講師の関麻由美先生は基調なコメントをしてくださった。厚く御礼を申し上げる。